

静岡県教育委員会

議事録

令和 8 年度 第 1 回定例
4 月 2 日（木）

静岡県教育委員会教育長 前澤綾子は、

令和8年4月2日に教育委員会第1回定例会を招集した。

1 開催日時 令和8年4月2日（水） 開会 15時00分
閉会 15時50分

2 会 場 教育委員会議室

3 出席者 教 育 長 前 澤 綾 子
委 員 小 野 澤 宏 時
委 員 天 城 真 美
委 員 飯 村 幸 生
委 員 渡 村 マ イ
委 員 川 田 善 正

事務局（説明員） 山 下 英 作 教育部長
小 野 田 秀 生 教育監
中 山 雄 二 理事（統括・学校教育担当）
八 木 貴 美 理事（こども政策連携担当）
高 橋 浩 一 教育総務課長
中 村 大 輔 教育政策課長
櫻 井 澄 人 教育DX推進課長
新 井 達 也 財務課長
袴 田 祐 之 給与事務統括課長
鈴 木 憲 昭 教育厚生課長
西澤 健 太 郎 教育施設課長
江 本 光 徳 義務教育課長
小 原 快 章 高校教育課長
山 村 仁 特別支援教育課長
山 崎 康 之 健康体育課長
小 竹 啓 功 社会教育課長
植 松 博 静岡教育事務所長
柳 瀬 昭 夫 静岡西教育事務所長
持 山 育 央 総合教育センター所長
渡 辺 賢 一 中央図書館長
外 山 新 也 焼津青少年の家所長
大 橋 英 之 観音山少年自然の家所長

4 そ の 他

（1）第1号議案は承認された。

（2）報告事項は了承された。

【開 会】

教 育 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。

今回の議事録の署名は、私のほか、渡村委員にお願いする。

教 育 長： それでは審議を始める。

第1号議案 知事の権限に属する事務の補助執行することに係る協議

教 育 長： 第1号議案「知事の権限に属する事務の補助執行することに係る協議」について、小原高校教育課長より説明願う。

高校教育課長： <第1号議案について説明>

教 育 長： 質疑等はあるか

全 委 員： (特になし)

教 育 長： 第1号議案について、原案のとおり可決することに異議はないか。

全 委 員： (異議なし)

教 育 長： 第1号議案について、原案のとおり可決する。

報告事項1 田方地区のグランドデザインの策定

教 育 長： 報告事項1「田方地区のグランドデザインの策定」について小原高校教育課長より説明願う。

高校教育課長： <報告事項について説明>

教 育 長： 今年度は磐周地域をまとめ、本年度中に全ての地域のグランドデザインが完成する。他方、実際の高校の再編及び統合をどのような形で行うかについては、各学校や市町などと今後協議を進めていく。質疑等はあるか。

全 委 員： (特になし)

教 育 長： 報告事項1を了承する。

教 育 長： 続いて、本日配付報告となっている件について、2件補足説明を行う。

配付報告2「令和8年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要」について、既に報道されているが、試験及び合格発表が終わった後に、三島市の中学校より、生徒の調査書に誤りがあったとの報告があった。韮山高等学校理数科に関わる件であったので、理数科の志願者全員に対する審査のやり直しを行った。その結果、既に合格を決定していた42名については結果に変更は無く、この影響で普通科から1名が追加合格となった。最終的に韮山高等学校の理数科は43名の合格となり、普通科が1名減ることとなった。県内初の事態であり、我々もスピーディーかつ適切な対応に苦慮したが、二度と同じ事態が無いよう、市町教育委員会をはじめ、高校から大学への入試についても間違いが無いよう、各高校へ広く注意を促す水平展開を図ったところである。

加えて、私学の無償化と、今年の志願者及び試験の傾向についての関連性について、小野田教育監からコメント願う。

教 育 監： 御存じのとおり、今年度から私学の授業料が実質的無償化となり、それがどの程度、公立高校の志願倍率等に影響があるのか、我々も着目していたところである。東京都や大阪府はそれぞれ都や府で先行して私学の無償化に取り組んでいたが、東京都も大阪府も入試制度が始ま

って以来一番の低倍率になり、定員割れする学校が増えたと報道された。本県もどれくらいの影響があるのかと思い見ていたが、思ったよりも早くこの影響があったと感じている。定員に対して志願者は大きな開きは無かった。全日制の倍率が 1.0 倍であり、決して高くはないが、今までの最低は 0.99 倍であったので、その次となる。全国的に見ると、1 倍を切っている都道府県も今回は多い。ただ驚いたのは、定員割れをした学校というのは、分校も含め 90 校中 69 校であった。普通科や理数科などといった科は、県内に 162 科あり、そのうちの 96 科で定員割れを起こしている。つまり、志願倍率が 1 倍で極端に低くはないが、定員割れを起こしている学校が、現行の入試制度が始まった 2008 年以降最多となった。それくらい人気のある学校と、ない学校の差が出てきたと感じている。それは私学無償化の影響で私学単願が増えていることもあるが、私学の授業料が無償化になって、「公立に落ちても私学に行けばいいや」、という気持ちの子どもたちが一定数いて、「思い切ってチャレンジしてみよう、この高校にチャレンジしてみよう」、といった子どもたちが増えているのではないかと個人的に分析している。したがって、まさに県教育委員会が取り組んでいる公立高校の再定義をしながら、いかに公立高校を魅力的にしていけるのか。生徒数に応じて様々な教育環境を提供するために、適正規模を維持していきながら、教育の質を落とさないように、数は減ったとしても質は落とさないようにしていくことが重要であると考えている。

教 育 長： 承知した。昨年度まで駿河総合高校長として勤務していた小原高校教育課長からも、現場の感覚についてコメント願う。

高 校 教 育 課 長： 駿河総合高校は定員が 200 名、5 学級規模の学校であるが、志願者が 197 名、合格が 197 名、3 人の定員割れという結果であった。駿河総合高校は、令和 6 年度末の入試においては、240 数名の志願者を集めており、1 学級分程度、不合格になる状況であった。無償化とは別に、高校入試においても、中学生が志願先を検討する際にどうしても波があり、揺り戻しにより、令和 7 年度末はきっと厳しくなるだろうと予想して、気を引き締めて広報活動、営業活動をしてきたつもりであったが、それでもやはり定員割れを起こすという結果となった。もっと言えば駿河総合高校は、総合学科であったり、特別支援学校南の丘分校を併置している学校であったり、外国人特別選抜をやっていたり、探究の推進校であるなど、非常に特徴のある学校でもあるので、比較的人気がある学校ではあると思っていたが、このような結果であった。こういったことを考えても、公立高校の再編はスピーディーにやっていかなければいけないと実感としたのが、この令和 7 年度の入試であった。

渡 村 委 員： 資料の 4「定員割れした学校の状況」に掲載されている学校は、ほかにも定員割れした学校がある中で、とりわけ多かった学校が掲載されているのか。

教 育 監： そうである。定員割れの多かった上位 5 校を掲載している。

渡 村 委 員： 定員割れが多かった理由はあるのか。袋井商業は元気で様々な取組を行っているイメージがあるので、定員割れしていることに個人的に驚いた。

高校教育課指導監： 実学系の学校のうち、商業だけが少し目立っているが、袋井商業だけではなく、商業高校の中でも定員割れを起こしている学校は多くなっており、その中でも一番多いということである。袋井商業に何かあった訳ではなく、たまたま商業高校の中の袋井商業が多くなったということである。先ほどお話しがあった、運動系でも人気があるというのは、私学でも運動系で頑張っている学校もあるので、そちらとの競合が影響していると推察される。一つ一つ詳細を分析できていないが、そのような点も関係あるかと思う。

教 育 長： 恐らく、個々の校長先生の努力といった話ではなく、県立高校あるいは公立高校全体でどういった戦略をとって、どういった配置にしていくなのかを考えていく。でないと、むやみやたらに私学との対立のような、子供の取り合いみたいな構造になっても不幸だと思うので、そのようなときに来たのかと思っている。

川 田 委 員： 大学入試の場合、倍率が高かった次の年は倍率が落ちるといった波が、1年ごとにあるが、高校でもそのようなことがあるのか。

教 育 監： 高校においてもある。倍率が高かった年の翌年はやはり警戒して、倍率が低く、志願者が減る傾向がある。次の年はまた増えたりなどということとは、私が校長をしているときもあった。

教 育 長： 他に質疑等あるか。

全 委 員： （特になし）

教 育 長： 続いて、配付報告3「令和8年度静岡県立特別支援学校高等部入学者選考の結果の概要」について、数字の修正があったので、山村特別支援教育課長より説明願う。

特別支援教育課長： 資料1ページ目、「1 高等部入学者選考結果」の合格発表後辞退者について、沼津特別支援学校伊豆田方分校で辞退者が1人追加となったことから、2人から3人に修正する。2ページ目の「1 高等部入学者選考結果」表の伊豆田方分校欄の備考欄に、「合格後辞退1」と追記する。

教 育 長： 質疑等はあるか。

全 委 員： （特になし）

教 育 長： 以上で、本定例会の議事は全て終了した。

これをもって、令和8年度第1回教育委員会定例会を閉会とする。